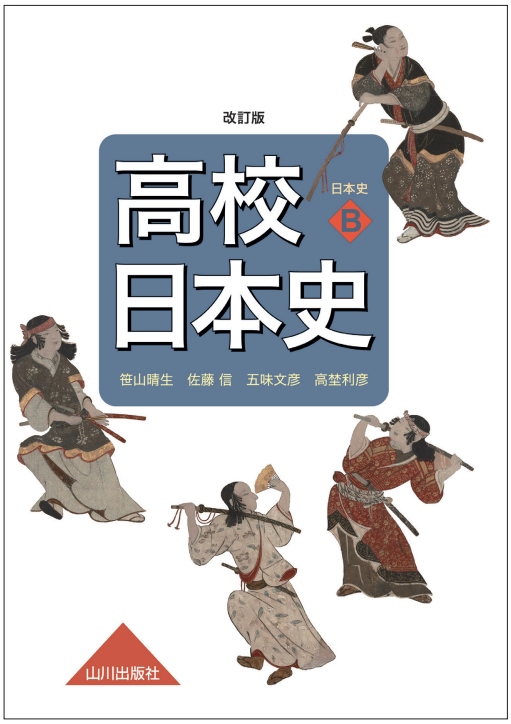
高校日本史

改訂版

日B314

［著作者］
老川慶喜
加藤陽子
五味文彦
早乙女雅博
坂上康俊
桜井英治
笹山晴生
佐藤　信
鈴木　淳
高埜利彦
吉田伸之

［編集協力］
荒井晴夫



A5判・366頁　予価844円

読みやすく流れを捉えやすい日本史B

豊富な図版とやさしい叙述で、日本史の流れを把握しやすい教科書です。4単位の授業で無理なく扱える分量・構成としながらも、大学入学共通テストに十分対応できる内容です。

『詳説日本史』の内容をやさしく読みやすく！！

日B314　高校日本史　改訂版

Message

『高校日本史』執筆者からのメッセージ

老川慶喜
（おいかわ　よしのぶ）
跡見学園女子大学教授

現代の日本社会は，「環境破壊」「少子高齢化」「経済の停滞」「就職難」など，さまざまな問題に直面しています。このようなときにこそ，私たちは歴史を学ぶ必要があります。現代社会の諸問題の解決をはかるには，それがどのようにして生じてきたのかを明らかにしなければなりません。そのためには歴史に学ぶのがもっともよい方法なのです。歴史を学ぶということは，歴史的事象を通して私たちが直面している諸問題について考えることなのです。

『高校日本史』は，生徒が歴史の文脈をしっかりと把握できるよう叙述に工夫を凝らしております。また，「歴史と資料」「歴史の解釈」「歴史の説明」「歴史の論述」など主題学習の充実をはかり，歴史を主体的に学ぶことができるように配慮しました。周辺地域の歴史にも頁を割き，日本史をより広い角度から学べるようにしました。この教科書を利用して，しっかりとした歴史認識をもつ生徒を育ててほしいと思います。

4単位でも無理なく扱える内容・構成になっています

目次

空からみる歴史遺産（口絵）

歴史と資料 身近な史跡・資料から考える …… 4

第Ⅰ部 原始・古代

第1章 古代社会の形成
1. 日本文化のはじまり …… 10
2. 農耕の開始 …… 15
3. ヤマト政権と古墳 …… 22

第2章 律令国家の形成
1. 律令国家の成立 …… 29
2. 律令国家の繁栄 …… 38
3. 律令国家の変質 …… 50

周辺地域を学ぶ❶ 古代の南九州 ―隼人― …… 57

第3章 貴族政治の展開
1. 摂関政治 …… 58
2. 国風文化 …… 62
3. 荘園の発達と武士の台頭 …… 68

周辺地域を学ぶ❷ 奥州藤原氏の繁栄 …… 72

第Ⅱ部 中世

第4章 武家社会の形成
1. 院政と平氏の台頭 …… 74
2. 鎌倉幕府の成立と発展 …… 81
3. 蒙古襲来と幕府の衰退 …… 88
4. 鎌倉文化 …… 93

第5章 武家社会の成長
1. 室町幕府の成立 …… 100
2. 下剋上の社会 …… 109
3. 室町文化 …… 116
4. 戦国の動乱 …… 123

歴史の解釈 土一揆を考える …… 128

周辺地域を学ぶ❸ 琉球王国 …… 130

第Ⅲ部 近世

第6章 幕藩体制の成立
1. 織豊政権 …… 132
2. 江戸幕府の成立 …… 143
3. 江戸初期の外交と文化 …… 151

周辺地域を学ぶ❹ アイヌと和人 …… 159

第Ⅲ部 近世

第7章 幕藩体制の展開
1. 幕政の安定 …… 160
2. 経済の発展 …… 163
3. 元禄文化 …… 171

歴史の説明 生類憐みの令は，なぜ出されたのだろう …… 177

第8章 幕藩体制の動揺
1. 幕政の改革 …… 179
2. 江戸幕府の衰退 …… 187
3. 化政文化 …… 195

第Ⅳ部 近代・現代

第9章 近代国家の成立
1. 開国と幕府の滅亡 …… 200
2. 明治維新 …… 209
3. 立憲国家の成立 …… 221
4. 大陸政策の展開 …… 229
5. 近代産業の発展 …… 240
6. 近代の文化 …… 246

第10章 二つの世界大戦とアジア
1. 第一次世界大戦と日本 …… 255
2. 政党政治と大衆文化 …… 266
3. 恐慌の時代 …… 274
4. 軍部の台頭 …… 279
5. 第二次世界大戦 …… 284

第11章 現代の世界と日本
1. 占領下の改革と主権の回復 …… 299
2. 55年体制と高度経済成長 …… 312
3. 現代の情勢 …… 322

歴史の論述 歴史の転換期をまとめる …… 331

日本史年表 …… 334

索引 …… 342

年間指導計画例

4月 14	5月 12	6月 15	7月 8	9月	9月 10	10月 15	11月 15	12月 12	1月 12

合計時数 113

詳しいシラバス案はホームページをご覧下さい。

【凡例】

1. 年は年代を知るのに便利なため西暦を主とし，日本の年号は（ ）のなかに入れた。明治５年までは日本暦と西暦とは１カ月前後の違いがあるが，年月はすべて日本暦をもとにし，西暦に換算しなかった。たとえば天正14年12月１日は，西暦では1587年１月９日であるが，1586（天正14）年12月とした。改元のあった年は，その年の初めから新しい年号とした。たとえば慶応４年は９月８日に改元して明治元年となったのであるが，この年のことはすべて1868（明治元）年とした。
2. 史料引用はできるだけ必要な部分にとどめたが，その際も前略・後略は特別には記さなかった。また，読みやすく書き改めたところもある。
3. 挿入した図版には原則として出所・原作者・所蔵者を明示したが，著者作成の図版および出所・所蔵不明のものは省略した。

日B314 高校日本史 改訂版

空からみる歴史遺産

空撮写真で学ぶ，斬新な口絵

上空から見ないとわからない形や，広範囲で捉える事で見えてくる歴史遺産を集めました。新たな発見で，史跡・文化財への興味をうながします。

❶三内丸山遺跡（青森県）
集合住宅と考えられる大型建物（右）や６本柱の巨大な構築物（左）など，縄文時代の遺構が復元された。➡P.13

❷大塚遺跡（神奈川県）
台地上の住居群を全長約600mの濠と土塁がとりまく弥生中期の環濠集落である。➡P.18

❸百舌鳥古墳群（大阪府）
大仙陵古墳（全長486m）の東側上空から大阪湾をのぞむ。左端は上石津ミサンザイ古墳。➡P.23

❹五色塚古墳（兵庫県）
築造当初の本来の姿に復元された。全長約194m。４世紀末～５世紀。➡P.23

❺沖ノ島（福岡県）
宗像大社の沖津宮として海神が祭られている。島の中腹の巨岩群に祭祀遺跡がある。➡P.27

歴史と資料

身近な史跡・資料から考える

歴史とは過去との対話である。私たちは，専門家の記述を通して過去を理解したり，みずから歴史資料に直接ふれたりして，過去と対話する。

歴史資料は，文献による資料や遺物・遺跡にわけられる。文献による資料は史料とよばれ，さまざまな行政文書・著作物・日記・手紙・契約書などがふくまれる。遺物には，遺跡から発掘されたもののほか，仏像などの図像，さまざまな生産用具，建築などもふくまれる。また，言い伝えや風習なども歴史資料である。これらの歴史資料にもとづいて歴史は考察されるのである。

資料から5世紀の日本を考える

先生：図1は埼玉県行田市の埼玉古墳群の稲荷山古墳から出土した鉄剣です。国宝の鉄剣ですから，知っている人もいると思います。この鉄剣は1968(昭和43)年の発掘で発見されていましたが，錆のため剣に刻まれた銘文の存在はわかりませんでした。しかし，10年後に保存のためX線で調査をして，はじめて金象嵌された銘文の存在が明らかになりました。

生徒：何が書いてあるのですか。

先生：銘文には，「辛亥年」，471年と考えられていますが，この年に「乎獲居臣」が銘文を記したこと，「乎獲居臣」は先祖代々，大王につかえて「杖刀人」の長官をつとめてきたこと，「乎獲居臣」は「獲加多支鹵大王」に奉仕して，天下をおさめるのをたすけてきたことなどが記されていました。わずか115文字ですが，古代史にとって大変重要な発見でした。

生徒：どうして重要な発見だったのですか？

先生：図2の熊本県の江田船山古墳から出土した大刀の銘文をみてください。「獲□□□鹵大王」と銀で記されていますが，これはどう読めますか。

図1　稲荷山古墳出土の鉄剣　(長さ73.5cm，文化庁蔵，さきたま史跡の博物館保管)

図2　江田船山古墳出土の大刀　(長さ91cm，東京国立博物館蔵)

史料1　『日本書紀』

大泊瀬幼武天皇　雄略天皇

史料2　『日本書紀』

(雄略天皇)七年秋七月三日、天皇は少子部連スガルに命じて、「私は三輪山の神の姿を見たいと思う。お前は腕力が人にすぐれている。自ら行ってとらえてこい」といわれた。スガルは、「ためしにやってみましょう」とお答えした。三輪山に登って大きな蛇をとらえてきて天皇にお見せした。その際、天皇はけがれの清めをされなかったところ、大蛇は雷のような音をたて、目をらんらんと輝やかせた。天皇は恐れ入って、目をおおって殿中にしりぞかれた。そして大蛇を丘に放たせて、あらためてその岳を雷丘と名づけられた。

(『日本書紀』、原漢文)

生徒：稲荷山の鉄剣銘と同じで，「獲加多支鹵大王」でしょうか。

先生：そうです。江田船山古墳の大刀に記された大王の名は，これまでわからなかったのですが，稲荷山の鉄剣の銘文から推定できるようになりました。

生徒：埼玉県と熊本県で出土した刀剣に，同じ大王の名がみられるのですね。

先生：そうです。この二つの古墳は，それぞれの地域の有力な豪族の墓であったと考えられます。そこに埋められたこれらの刀剣の銘文は，古墳時代の当時に記された史料であり，5世紀後半ころの各地の地方豪族とヤマト政権の大王との関係を伝えてくれているのです。

それでは続けて，史料1を読んでみましょう。『日本書紀』という奈良時代に編さんされた歴史書にある雄略天皇という大王の名前です。

生徒：「オオハツセ，ワカタケ……」。稲荷山鉄剣の大王の「ワカタケル」とそっくりですね。

先生：『日本書紀』に雄略天皇と記述されている天皇は，5世紀に実在した「ワカタケル大王」と同一人物であると推定できますね。雄略天皇というのは8世紀になってからの呼び名で，のちにつけられたものです。

生徒：『日本書紀』には，歴史的な事実が書いてあったのですね。

先生：そうとばかりはいえませんよ。『日本書紀』のほかのところにある雄略天皇のことを記録した史料2が，本当のことだと思いますか。

生徒：こんな話は信じられません。

主体的な学習をうながす主題学習

「歴史と資料」「歴史の解釈」「歴史の説明」「歴史の論述」では日本史への関心を高め，歴史的思考力を培い，表現する方法を段階的に身につけていけるよう工夫しました。

読みやすく，流れを捉えやすい文章

やさしい文章で基本的な流れがよくわかります。ふりがなを丁寧にふり，脚注も少なく，読みやすさを心がけました。

切妻造の家形埴輪（高さ54.0cm，群馬県赤堀茶臼山古墳，東京国立博物館蔵）

武人の埴輪　甲冑に身をかため，刀を帯びている。（高さ130.5cm，群馬県出土，東京国立博物館蔵）

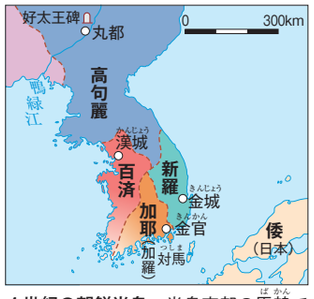
群集墳（奈良県新沢千塚古墳群）　低い丘陵上に約600基の古墳がある。大多数は直径20m前後の円墳で，5～6世紀に築かれた。

古墳時代後期になると，朝鮮半島からの影響が強まって，内部に**横穴式石室**をもつ古墳が多くなった。埴輪も人物や動物をかたどった形象埴輪がさかんにつくられた。また，小さな円墳がまとまってつくられた**群集墳**が各地にいとなまれ，有力な農民層が力をつけてきたようすがわかる。

ヤマト政権と東アジア

中国大陸では，3世紀後半に晋（265～316）が国内を統一したがその力は弱く，北方民族の侵入により，5世紀には南北分裂の時代をむかえた（南北朝時代）。中国の支配力は弱まり，東アジアの諸地域では独立する動きを強めて，4世紀に入ると，朝鮮半島では，北部に**高句麗**（?～668），南部に**新羅**（4C半～935）・**百済**（4C半～660）の3国がそれぞれならびたった。

倭（日本）では，4世紀のなかごろまでには，大和地方を中心としたヤマト政権が勢力を拡大し，大和地方の王は地方の首長を統合して**大王**（だいおう）とよばれた。ヤマト政権は新しい文化や鉄資源を求めて，早くから朝鮮半島南部の加耶諸国と深いつながりをもっていたが，4世紀後半に高句麗が南下を進めると，百済などとともに高句麗と戦うことになった。高句麗の**好太王碑**には，倭の兵が辛卯の年（391年）以降，朝鮮半島にわたり，高句麗軍と戦ったと記されている。



4世紀の朝鮮半島　半島南部の馬韓では百済が，辰韓では新羅が小国を統一した。弁韓では小国の分立が続き，加耶または加羅と総称され，『日本書紀』では任那ともよんだ。

好太王碑　高句麗の都，丸都（現在は中国吉林省）にたつ高さ約6.4mの石碑で，国土を広げた好太王をたたえるため，子の長寿王がたてた。好太王がみずから軍をひきいて百済を攻撃したことなどが記されている。広開土王碑ともいう。

倭の五王と天皇

〔日本書紀〕　〔宋書〕

1 応神
2 仁徳
3 履中
4 反正
5 允恭
6 安康
7 雄略

讃
珍（弥）
済
興
武

数字は皇位継承の順
（　）は『梁書』

讃は仁徳か応神か履中，珍は反正か仁徳，済は允恭，興は安康，武は雄略の各天皇にあたると考えられている。

倭王武の上表文

興死して弟武立つ。……順帝の昇明二年❶、使を遣して上表して曰く、「封国❷は偏遠にして、藩を外に作す。昔より祖禰❸躬ら甲冑を擐き、山川を跋渉して寧処に遑あらず❹。東は毛人❺を征すること五十五国、西は衆夷❻を服すること六十六国、渡りて海北❼を平ぐること九十五国……」と。

（『宋書』倭国伝、原漢文）

❶四七八年。❷領域、自分の国のこと。❸父祖という説と、武の祖父の珍（左図参照）をさすという説とがある。❹落ちついている暇もない。❺蝦夷だけでなく東国の人びとをよんだのであろう。❻西国の人びとのことか。❼朝鮮半島のことか。

受験にも対応できるように配慮しました。約70の史料を掲載しています。

中国の歴史書によると，5世紀をつうじて倭の5人の王が中国南朝の宋に朝貢の使者をつかわした（**倭の五王**）❶（420～479）。五王の目的は，中国皇帝の権威をかりて朝鮮半島諸国との外交・軍事上の立場を有利にし，国内支配を安定させることにあったと考えられる。

埼玉県と熊本県の古墳から発掘された鉄製の刀剣には，ともに「ワカタケル大王」の名がみえる。この王は，倭の五王の「武」であり，のちに ▶P.4

❶讃・珍・済・興・武の5人の王。

大学入学共通テストにも対応できるよう配慮し，文章や用語・史料などを精選しています。

本文を補足する系図や整理図を掲載しています。

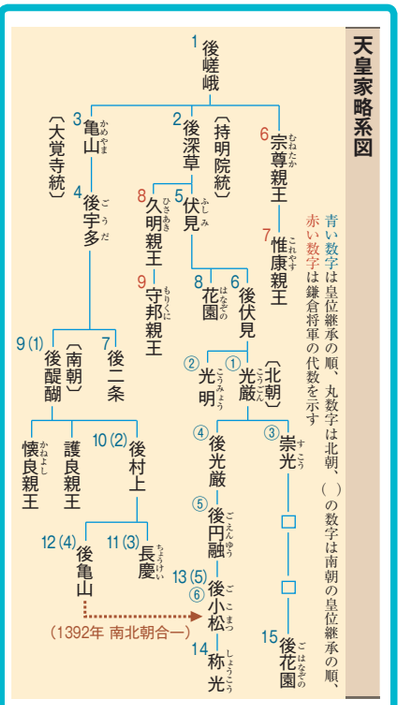
第5章

武家社会の成長

1. 室町幕府の成立

鎌倉幕府の滅亡

13世紀後半から，天皇家は**大覚寺統**と**持明院統**の二統にわかれて，皇位と天皇家領荘園の相続をめぐって争っていた。こうしたなかで，鎌倉幕府は両方の皇統から交代して天皇を出す方式(**両統迭立**)を定めるなど，朝廷の政治にも影響をあたえていた。一方，14世紀初めには，北条氏の専制政治はいっそうすすみ，御家人は幕府を信頼しなくなっていた。

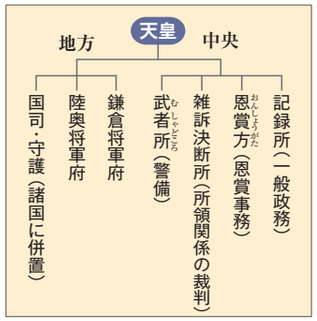


天皇家略系図　二つの皇統から交互に天皇を出していること，その後の南北朝対立の流れに注目しよう。

このような情勢のもとで即位した**後醍醐天皇**(位1318～39)は天皇が絶対であるという考えをもち，10世紀の醍醐・村上(▶P.58)天皇の政治を理想とし，院政をやめて天皇親政をはじめた。

やがて天皇は討幕の計画をすすめたが，事前に幕府側にもれて失敗した。1331(元弘元)年には挙兵もくわだてたが，これも失敗に終わり(元弘の変)，天皇は隠岐に流された。しかし，皇子護良親王(1308～35)や**楠木正成**(？～1336)らは畿内の悪党をひきいて幕府に抵抗したため，畿内周辺地域では反幕府の動きが活発となった。この情勢をみた後醍醐天皇は隠岐を脱出した。

後醍醐天皇　父後宇多上皇の院政を廃止して天皇親政をめざし，討幕を実現した。この肖像は，袈裟をまとい，両手に密教法具をもつなど，異例の天皇像である。(神奈川県，清浄光寺蔵)



建武政府の職制　朝廷と鎌倉幕府それぞれの制度を引きついだ役所や役職が混在している。

これに対し，幕府は有力御家人の**足利高氏**(1305～58，のち**尊氏**)❶を京都へ派遣した。しかし，尊氏は畿内周辺で幕府に反抗する動きが高まったことをみて幕府にそむくことを決意し，1333(元弘3)年，六波羅探題(▶P.85)をせめ落とした。その後，関東の御家人**新田義貞**(？～1338)も鎌倉をせめて得宗の北条高時(1303～33)以下をほろぼし，鎌倉幕府はここに滅亡した。

建武の新政

後醍醐天皇は京都に帰って新政をはじめた。翌1334(建武元)年には年号を建武と改めたので，天皇のこの政治を**建武の新政**という。

新政の目標は，摂政・関白・院政・幕府を否定して，天皇中心の朝廷政治を復活させることにあった。しかし，現実には鎌倉幕府の制度を無視することはできなかった。中央には一般政務を司る**記録所**と所領問題を処理する**雑訴決断所**をおいたが，これは旧幕府の引付(▶P.87)の機能をうけついだ役所であった。地方には国司とならんで，鎌倉幕府時代以来の武家の職である守護がおかれた。また，東北・関東地方には，陸奥将軍府・鎌倉将軍府をおいて皇子を派遣した。

天皇はその強烈な個性のままに，専制的にふるまった。しかし，すべ

注は必要最小限にとどめました。

❶ 尊氏は，このとき北条高時から一字を得て高氏と称していたが，のちに討幕の功績により，後醍醐天皇の諱である尊治の一字を得て，尊氏と称することになった。

桃山文化

16世紀末ころ，織田信長・豊臣秀吉が全国統一をすすめた時代の豪壮な文化である。大名のほか，豪商が海外貿易などにより富をたくわえた一方で，寺院勢力はおとろえ，現世的な文化となった。雄大な城郭建築の内部を豪華な障壁画がかざる一方，広く茶の湯が流行し，かぶき踊りがもてはやされた。また，ヨーロッパ人の来航を機に南蛮文化が花開いた。

約650点の豊富な図版

本文とあわせて視覚的なイメージも捉えられるよう，写真・地図・グラフ・系図・表などを，約650点掲載しました。とくに文化史は特集ページを設け，各文化の特徴を適切に捉えた解説を付けました。

姫路城　関ヶ原の戦いののち，池田輝政が着工し，1609（慶長14）年に竣工した。姫山にそびえる平山城で，連立式天守閣となっている（本丸・西の丸が現存）。別名白鷺城。（兵庫県）➡口絵⑯

都久夫須麻神社本殿　伏見城から移築したといわれ，透彫や金蒔絵が残る。（滋賀県）

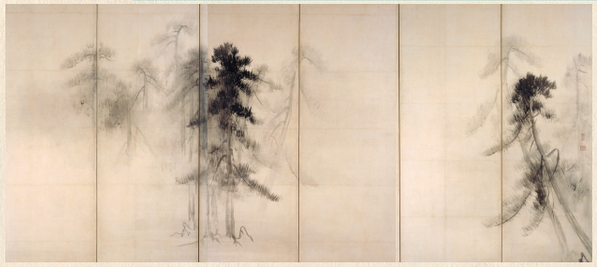
西本願寺飛雲閣　安土桃山時代の代表的な庭園建築で，3層からなる。軽妙で変化に富み，非対称・非調和を強調したつくりとなっている。（京都府）

二条城大広間（上段の間）　48畳敷きの大広間は正面に床と違い棚を設けている。壁面は狩野探幽らによる巨大な松がえがかれ，天井は豪華な二重折上格天井としている。（京都府）

唐獅子図屏風（狩野永徳筆）　秀吉が毛利征討のとき，本能寺の変のため急きょ和睦した際，毛利輝元におくられた品という。唐獅子の威厳が大名の剛毅な気風を伝える。（宮内庁三の丸尚蔵館蔵）

妙喜庵待庵　千利休が1582（天正10）年につくったとされる，わずか2畳の草庵の茶室。床の間には「妙喜」の掛け軸がかざってある。（京都府）

南蛮人渡来図屏風　六曲一双。南蛮人がカピタン（船長）を中心に南蛮寺にむかう場面。寺のなかには南蛮人と日本人の姿もみえる。（縦163.5cm，横362.5cm。南蛮文化館蔵）

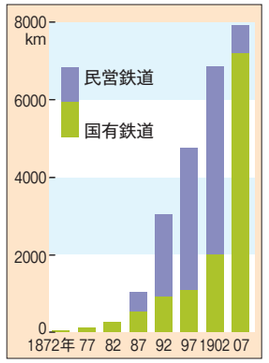


松林図屏風（長谷川等伯筆）　深い霧のなかから姿をあらわす松林のたたずまいを，墨の濃淡と筆づかいだけで表現している。（東京国立博物館蔵）

ポイントをおさえた図版解説で，より興味がわき，理解が深まります。

近現代史の充実
近代・現代では経済史が専門の執筆者による，わかりやすく充実した記述になっています。統計資料も工夫しました。

八幡製鉄所　建設資金の一部には日清戦争の賠償金もあてられ，1897(明治30)年に着工，1901(明治34)年から鉄鋼の生産を開始。中国の大冶鉄山の鉄鉱石を安価に輸入し，筑豊炭田の石炭を燃料とした。写真は創業当時の景観。(新日鐵住金株式会社八幡製鐵所蔵)



鉄道の発達　産業・軍事上から，民間を中心に発達した鉄道事業は，そのほとんどが国有化された。(『日本経済統計総覧』より)

重工業の発達

軽工業部門にくらべ，重工業部門はたち遅れていたが，1900年代に入ると，ようやく生産体制がととのいはじめた。

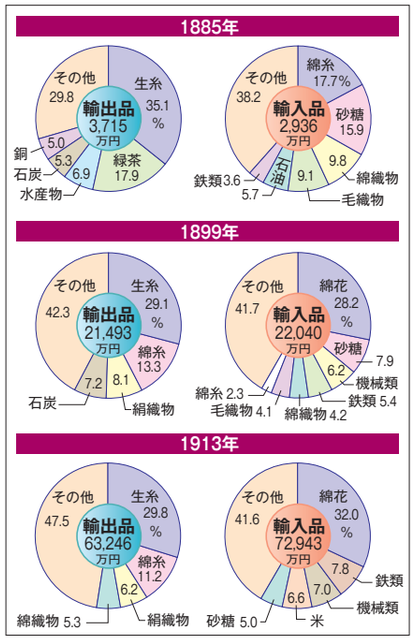
日清戦争後，軍備拡張をめざす政府は，鉄鋼を国内で生産できるようにするため，官営の**八幡製鉄所**を建設した。そして，1901(明治34)年，当時東洋一といわれた溶鉱炉に火が入り，鉄鋼生産がはじまった。日露戦争のころには生産は軌道にのったが，戦後になっても国内の鉄鋼需要を満たすにはいたらなかった。

日露戦争後，造船技術は世界的水準に達した。また，このころから**水力発電**が本格的にはじまり，大都市に電灯が普及していった。

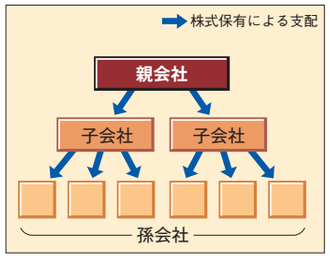
鉄道は，民営会社を中心にめざましく発達した❶。しかし，政府は軍事上の必要もあって，1906(明治39)年，**鉄道国有法**を公布し，主要幹線はすべて国有とし，鉄道全長の90%を国有鉄道が占めた。

20世紀に入っても工業の中心は軽工業で，輸出はいちだんとのびた。製糸業では1909(明治42)年に，アメリカ向けを中心に生糸輸出量が清国をぬいて世界第1位に達した。紡績業では大会社が合併などで力を強め，綿織物業も経営して，韓国・清国へ綿布をさかんに輸出した。

❶ 華族を主体として1881(明治14)年に設立された日本鉄道会社が代表的である。



品目別の輸出入の割合　初め輸出超過だったが，のちには輸入超過になった。輸出品は生糸が3割前後，輸入品では綿花がふえ，鉄類や機械など重工業関係も増加した。(『日本貿易精覧』より)



コンツェルンの構造　コンツェルン(企業連携)は，親会社が，株式保有をつうじて，各分野の企業を子会社・孫会社(系列会社)として傘下におさめて形成される企業集団をいう。

しかし，輸出が活発になっても，軍需品・重工業資材・綿花などを輸入するため，貿易収支は毎年のように赤字であり，しかも日露戦争時に借入れた外債の利払いが大きな負担になった。こうして戦後の景気は長続きせず，1907(明治40)年には恐慌がおこり，その後も不況が続いた。▶P.240

財閥の成立

20世紀の初め，日本の経済界は産業革命を達成して，資本主義が成立した。このころからめだってきたのが**財閥**である。明治時代前期に発展した三井・三菱のような政商▶P.216や，住友・古河のように鉱山業で富を得た者は，一族で鉱工業をふくむ多くの企業を支配する財閥に成長していった。財閥は，明治末年から大正期にかけて，多くの部門にわたり株式を所有することで会社を支配する持株会社をつくり，コンツェルンの形をととのえていった。

これらの財閥のうち三井は江戸時代以来の豪商で，明治時代に銀行や商社をつくり，官営事業の払下げをうけて発展した。三菱は岩崎弥太郎が海運業で成功し，官営事業の払下げをうけて，鉱山・造船業でも▶P.214

「周辺地域を学ぶ」
「古代の南九州ー隼人ー」「奥州藤原氏」「琉球王国」「アイヌと和人」の４つの地域を取り上げ，通史の展開と関連づけながら，日本列島の地理的な多様性にも目を向けます。

周辺地域を学ぶ 3

琉球王国

日本の九州・台湾・中国大陸のそれぞれから約500kmの距離に位置し，古くから東シナ海の海上交通の要衝となってきた沖縄の歴史を振り返ってみよう。

弥生文化は南西諸島にはおよばなかったため，沖縄本島では貝塚文化とよばれる食料採取文化が長く続いたが，▶P.16 12世紀ころから米・麦の農耕が本格的にはじまり，グスクが形成されていった。グスクは当初は集落や聖地からなっていたが，その指導者である按司の成長とともに，しだいに立派な石垣のグスク(城)がつくられるようになった。13世紀，モンゴルの動きが東アジアに大きな影響をあたえるなか，沖縄本島では各地の按司がグスクを拠点に勢力を広げていき，やがて山北(北山)・中山・山南(南山)の三つの勢力(三山)に統合されていった。

1372(応安５)年，中山王が明に入貢し，これをきっかけに中国との朝貢貿易が展開されるようになった。1429(永享元)年，中山王尚巴志▶P.109が三山を統一し，琉球王国をつくり上げると，琉球王国は明や日本などと交易するとともに，海外貿易をさかんにおこなった。

琉球船は南方のジャワ島・スマトラ島・インドシナ半島などにまでその行動範囲を広げ，東南アジア諸国間の中継貿易に活躍したので，王国の都首里の外港である那覇は重要な国際港となり，琉球王国は貿易立国として繁栄した。その最盛期は16世紀前半であり，その後，ポルトガル・スペインが東アジアへ進出すると，琉球王国の中継貿易の役割は小さくなった。

やがて豊臣秀吉や薩摩の島津氏が服属を求めたため動揺がはじまり，1609(慶長14)年に薩摩藩に征服され，▶P.156 王国の体制のまま日本に服属することとなった。

中城城跡(沖縄県)

琉球の三山分立

高校日本史教授資料

授業実践編

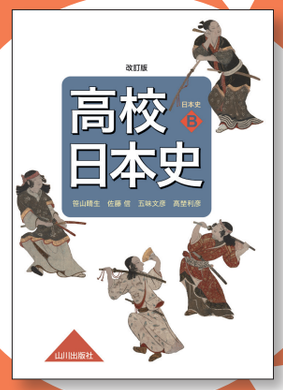
研究編

パソコンソフト

教科書ソフト

日本史正誤問題データ集

授業の下準備に

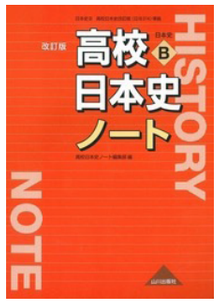


授業教材作成をバックアップ。

授業で使える

対応していて使いやすい

準拠ノート



高校日本史改訂版ノート

電子黒板・プロジェクター用

日本史デジタル教材集

NEW日本史デジタル素材集

DVD教材

ムービー日本史

ニュースで見る日本史

高校日本史 改訂版 教授資料 授業実践編

B5判・352頁　本体4000円(税別)

『高校日本史　改訂版』を使った授業実践にご利用いただける材料を盛り込みました。
指導上の目標や板書例・発問例など，授業展開に役立つ内容を取り入れています。

鉄砲の伝来

学習のねらい

鉄砲の伝来が大航海時代と関連していることを捉え，日本と世界の繋がりを理解する。

指導上の留意点

1．教科書に初めて世界地図が出てきたことを指摘し，歴史が世界規模で動き始めた時代であることを図版から読み取らせる。
2．南蛮貿易の輸出入品を確認し，中世の貿易との共通点・相違点を考察させる。
3．鉄砲の伝来によって，その後の日本にどのような影響が与えられたか考察させる。

解説

解説A―大航海時代

ヨーロッパでは防腐剤として香辛料の需要が高かったが，原産地はアジアであるため，東方貿易を独占していたオスマン帝国を通じてようやく手に入る貴重品であった。ポルトガルやスペインはアジアと直接貿易を行なうために，新航路の開拓に挑んだ。世界史既習の場合は，復習しながら進めるとよい。

図版

16世紀の世界と日本人の往来

ポルトガル・スペイン・オスマン帝国の各領土の位置に注目させたい。地中海周辺を領土としたオスマン帝国に対し，ポルトガルがアフリカ南端から東回りで，スペインがアメリカ大陸から西回りで新航路を開拓し，東方貿易を行なったことがわかる。後に日本人も両航路を利用し，ヨーロッパを目指した。

発問例　ヨーロッパ人がわざわざ危険を冒し，遠回りしてアジアへの新航路を開拓したのはなぜか，図版から読み取ろう。
答　オスマン帝国がヨーロッパの東方貿易の経路を独占していたため，直接貿易するためには新航路の開拓が必要だったから。

解説B―南蛮人の来航

「南蛮」とは中華思想における周辺民族への呼称である。一方，後に来航したイギリス人やオランダ人は紅毛人と呼ばれ，南蛮人とは区別された。漂着した中国のジャンク船にはポルトガル人が乗っていた。シャムから中国の寧波へ向かう途中で暴風雨にあったのが原因であった。

解説C―南蛮貿易

ポルトガルはマカオを拠点に，中国や東南アジアの生糸・絹織物・綿糸などを日本にもたらした。日本からは銀や硫黄などが輸出された。ポルトガル船は夏に南からの季節風を利用して日本に出航し，冬には北からの季節風を利用してマカオへ帰航した。当時，日本の銀産出量は世界全体の約3分の1を占め，世界経済に大きな役割を果たしたことを指摘し，日本史は世界史の一部であることを理解させたい。

発問例　南蛮貿易と中世の貿易を比較して，共通点と相違点を挙げよう。
答　(例)共通点：おもな輸入品が中国産である，おもな輸出品が鉱産物である。
相違点：貿易の相手がヨーロッパ人になった。ヨーロッパの技術が入ってきた。

板書例

〈鉄砲の伝来〉

(1)大航海時代(15世紀末～16世紀)　A
ヨーロッパ人による，アメリカ大陸・アジアへの進出
背景：オスマン帝国の貿易経路独占
スペイン：西回り→マニラ(フィリピン)
ポルトガル：東回り→マカオ(中国)

(2)南蛮人の来航　B
1543年　ポルトガル人→種子島
鉄砲伝来
スペイン人→平戸

(3)南蛮貿易　C
九州各地の港で開始
輸入品：鉄砲・火薬・生糸(中国産)
輸出品：銀

(4)鉄砲の影響
国内で生産→急速に広まる
戦闘方法(騎馬戦→足軽鉄砲隊)や築城法が変化

〈キリスト教の伝来〉

(1)布教活動の開始　A
1549年　フランシスコ＝ザビエルが来日
イエズス会の宣教師
ヨーロッパでの宗教改革に対抗

図版

種子島銃

鉄砲伝来後，堺・根来・雑賀・国友などでも大量生産され，短期間で普及した。鉄砲の製造には刀鍛冶の高い技術力が活かされた。鉄砲の普及は天下統一の動きに大きな影響を与えたことを理解させたい。一方，当時の鉄砲は火縄銃のため雨天では使用できず，有効射程距離は弓よりも短かったようだ。

発問例　鉄砲が日本に伝来したことで，どのような影響があったか考えよう。
答　(例)戦闘方法が変わった。築城方法が変わった。鉄砲の製造を通して技術力が高まった。鉄砲を扱う商人が利益を得た。

キリスト教の伝来

学習のねらい

キリスト教の伝来が宗教改革や大航海時代と関連していることを理解し，日本への影響や広く受け入れられた背景を考察する。

指導上の留意点

1．キリスト教の布教活動は，南蛮貿易と一体化して行なわれたことを理解させる。
2．ザビエルの布教活動から，日本におけるキリスト教の伝播の特徴を読み取らせる。
3．キリスト教が日本で広く受け入れられた背景，特にキリシタン大名の思惑について考察させる。

解説

解説A―布教活動の開始

イエズス会はカトリックの男子修道会である。1534年にイグナティウス＝デ＝ロヨラを中心に結成された。当時，ヨーロッパでは宗教改革によりプロテスタントが拡大していたため，イエズス会は対抗して世界各地に赴き，カトリックの布教活動に取り組んだ。

フランシスコ＝ザビエルはイエズス会創設者の一人。インドのゴアで布教活動を行なった。マラッカ布教中に出会った日本人ヤジローの話を聞き，日本での布教を決意した。1549(天文18)年に来日し，大名の保護の下で布教活動を行なったが，天皇や将軍に会うことができず，布教活動の許可は得られなかった。1551(天文20)年に離日し，インドへ戻る。翌年，中国での布教を志したが，熱病のため死去。

図版

キリスト教の伝播

ザビエルは鹿児島や山口など，西日本を舞台に布教活動を展開した。そのため，キリスト教は西日本を中心に伝播していった。

大友義鎮の印は「FRCO」(洗礼名Francisco)，黒田孝高の印は「SimeonJosui」(洗礼名Simeonと出家名如水)と十字，黒田長政の印は「CuroNGMS」(黒田のクロと長政の子音字)とある。

図版

ザビエル

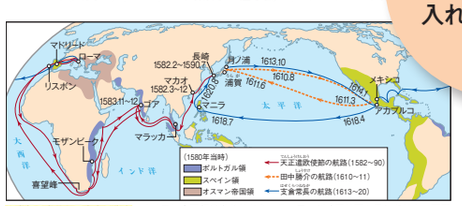
「IHS」はイエズス会の紋章。ザビエルの髪型はトンスラといい，修道士特有のものである。

1. 織豊政権

鉄砲の伝来

ムスリム(イスラーム教徒)を君主とするオスマン帝国によって，地中海からアジアにいたる通商ルートをおさえられていたヨーロッパ人は，15世紀末には大西洋を横断してアメリカ大陸に到達したほか，喜望峰をまわるインド航路も開いた。これをきっかけに，16世紀にかけて，ヨーロッパ人は積極的にアメリカ大陸やアジアへ進出しはじめた。この時代を**大航海時代**とよび，その先頭にたったのが**スペイン**と**ポルトガル**であった。スペインはアメリカ大陸に植民を広げ，西回りでアジアに達し，フィリピンのマニラを根拠地とした。一方，ポルトガルはアフリカ大陸南端をへて東回りでアジアに進出し，国のマカオを根拠地とした。

1543(天文12)年ころ，九州南方の**種子島**に，ポルトガル人



16世紀の世界と日本人の往来　オスマン帝国領の広がりから，ヨーロッパ諸国は西へ目をむけた。天正遣欧使節は喜望峰をまわり，支倉常長はメキシコから大西洋を横断して，ヨーロッパをめざした。

教科書の本文を70%に縮小して入れました。

キリスト教の伝播　ザビエルは，鹿児島に来航したのち，上京したが，将軍との会見を果たすことはできず，山口に滞在後，日本を退去した。

ザビエル(神戸市立博物館蔵)

種子島銃(長さ99.8cm。鹿児島県，種子島時邦蔵)

国船が漂着した。このとき，島主の種子島時堯は，彼らがもっていた**鉄砲**を買い求め，家臣にその使用法と製造方法を学ばせた。少し遅れてスペイン人も肥前の平戸へやってきた。日本人はこの両国人を**南蛮人**とよび，九州各地の港で**南蛮貿易**がはじまった。南蛮人は鉄砲・火薬のほか，中国産の生糸などをもたらし，日本の銀などと交易した。新兵器の鉄砲は戦国大名にむかえられ，堺など国内でも生産がはじまり，急速に広まった。とくに足軽鉄砲隊の登場は，これまでの騎馬戦中心の戦闘方法や防御施設としての城の築き方に大きな変化をもたらした。

キリスト教の伝来

南蛮貿易は，キリスト教の布教活動と一体化しておこなわれた。当時，ヨーロッパでは宗教改革により，プロテスタント(新教)が勢力をのばしたため，これに対抗してカトリック(旧教)側でも改革と勢力の回復をはかっていた。その一環として，イエズス会(耶蘇会)の宣教師**フランシスコ＝ザビエル**は鹿児島に上陸し，日本への布教を開始した。

その後，宣教師があいついで来日し，南蛮寺(教会堂)・コレジオ(宣

❶筒の先から火薬と玉を入れる，先ごめの火縄銃であった。

❶**板書例**　授業の流れを，簡潔に整理しています。無理なく板書できる分量です。プリント作成にもご利用ください。板書例のアルファベットは「解説」および本文とも対応しています。

❷**学習のねらい・指導上の留意点**　小見出しごとに，このテーマで何を学ぶかを，おさえています。授業展開の柱となるポイントをまとめて示しました。

❸**解説**　授業展開上，特におさえておきたい重要用語や記述を解説し，その関連事項や取り扱い方などを記しました。

❹**図版・史料解説**　本文に入っている写真・史料・グラフなどの見方やどのような点に注意しながら理解するかを解説しています。

❺**発問例**　生徒の興味を引き出す発問とそのヒントをおさえてあります。

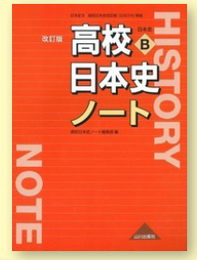
❻黄色マーカーをひいた用語は，各教科書共通の『教授資料研究編』(B5判・本体6000円〈税別〉，☞p.72-73)にて詳しく解説しています。併せてご利用ください。

高校日本史 改訂版 ノート 日B314準拠

B5判・160頁　本体700円(税別)　2色刷

見開き構成
左頁で基本事項をおさえ，右頁で学習を深めます。

❶左頁は，**重要用語**を穴埋めにしてあります。教科書本文にそって，**基本的な事項**を，習得することができます。
❷**図で整理しよう！** 図や表などを見ながら，歴史の流れや因果関係を，**視覚的に理解する**ことができます。
❸**センター試験　ここがねらい目！** 予想問題に取り組みながら，**択一問題**の形式を身につけます。
❹**挑戦してみよう！** 最後に，習得した知識をもとに，**文章表現**を試み，学習を深めます。思考力・表現力が身につきます。



第6章

幕藩体制の成立

1. 織豊政権(1)　教 p.132〜134

❶

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧

⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭

⑮
⑯
⑰

鉄砲の伝来

a　オスマン帝国によって，地中海からアジアにいたる通商ルートをおさえられていたヨーロッパ人は，15世紀末から16世紀にかけて，アメリカ大陸やアジアへ進出しはじめた。中心国は(　①　)・(　②　)で，当時の日本人は彼らを(　③　)人とよんだ。

b　(　①　)は**西回り**でアジアに達し，フィリピンの(　④　)を根拠地(こんきょち)とした。

c　(　②　)は**東回り**でアジアに達し，中国の(　⑤　)を根拠地とした。1543年，(　⑥　)に漂着し，新兵器の(　⑦　)を伝えた。

d　九州の各地の港で(　③　)**貿易**がはじまった。
・輸入品：(　⑦　)・火薬(かやく)・生糸(きいと)(中国産)
・輸出品：(　⑧　)・硫黄(いおう)

e　(　⑦　)は堺(さかい)など国内でも生産され，戦闘方法や築城方法に大きな変化をもたらした。

キリスト教の伝来

a　1549年，(　⑨　)会の宣教師(せんきょうし)(　⑩　)によって，布教(ふきょう)が開始された。

b　(　⑪　)(教会堂)や，(　⑫　)(宣教師養成の学校)，(　⑬　)(神学校)を建て，病院や育児院をつくるなど，熱心な布教活動を行なった。

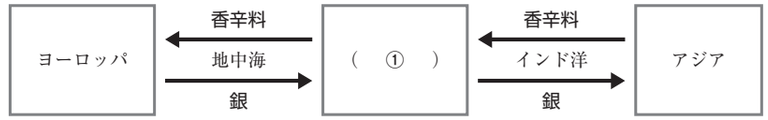
c　布教活動は(　③　)**貿易**をのぞむ西日本の大名(だいみょう)によって保護され，なかには自ら洗礼(せんれい)をうけて(　⑭　)大名になる者もいた。その結果，**西日本**を中心に，信者が急増した。

d　1582年，(　⑭　)大名の(　⑮　)・有馬晴信(ありまはるのぶ)・大村純忠(おおむらすみただ)は，宣教師(　⑯　)のすすめで，4人の少年をローマ教皇(きょうこう)のもとに派遣した。これを(　⑰　)という。

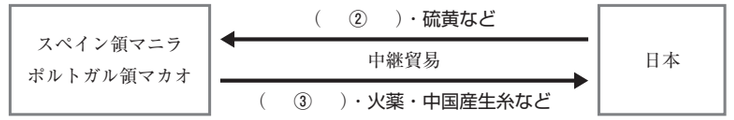
❷

図で整理しよう！

●**大航海時代以前の貿易**　①にあてはまる語句を下に記入しよう。



●**南蛮貿易**　②・③にあてはまる語句を下に記入しよう。



①＿＿＿＿＿＿　②＿＿＿＿＿＿　③＿＿＿＿＿＿

❸

センター試験　ここがねらい目！

●15世紀後半以後，キリスト教布教や貿易拡大などを意図したヨーロッパ人は，アメリカ大陸やアジアへ進出した。東南アジアから東アジアにおける中継貿易に関与したヨーロッパ人のなかには，日本近海に来航するものも出てきた。

16世紀半ば，中国船に乗船した［ア］人が種子島(たねがしま)に漂着した。その後，ヨーロッパ船も来航するようになり，南蛮貿易が開始された。1549年イエズス会の宣教師フランシスコ＝ザビエルが［イ］に来航し，日本にキリスト教を伝えた。以後，多くの宣教師たちが，布教活動を行なった。南蛮貿易とキリスト教の布教とは一体化して行なわれ，貿易による利益を目的として布教を認めた大名もいた。(　　)

問　空欄［ア］［イ］に入る語句の組合せとして正しいものを，下の①〜④のうちから一つ選べ。(　　)

① **ア**－ポルトガル　**イ**－平戸　　② **ア**－ポルトガル　**イ**－鹿児島
③ **ア**－スペイン　**イ**－平戸　　④ **ア**－スペイン　**イ**－鹿児島

❹

挑戦してみよう！

●キリスト教が，西日本を中心に急速に広まった理由を説明してみよう。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

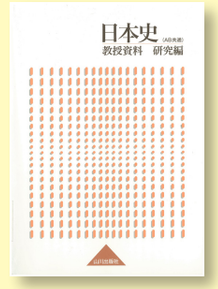
ノートをご採用いただきますと，**解答入りのPDFデータ**をサービスでお付けいたします。

CD

日本史教授資料 研究編（日本史教科書共通）

B5判・456頁　本体6000円（税別）

山川出版社のすべての日本史教科書に共通してご使用いただけます。『詳説日本史』の配列にしたがって，重要項目や史料・図版の内容や見方などについて解説しています。日本史の先生方に必携の一冊です。



心を寄せた。その修禅の事績を伝える一資料がこの図で，高山寺楞伽山中の松林の中で，一樹の上に坐禅瞑目する姿を描く。筆者は恵日房成忍といわれるが，迫力に富む筆法で，道心堅固な上人の風貌を伝え，淡彩を加えて深遠な自然の環境を表わすところなど，鎌倉初期の肖像画でも異色な作品である。

青蓮院流　三跡（蹟）の一人である藤原行成は，平安時代に穏やかな品のよい和風書道を大成し，世尊寺流を開いたが，鎌倉後期に持明院統に属する伏見天皇はこれを受け継いで，大覚寺統の宋風書道に対抗して，新しい和風書道を展開した。伏見天皇の皇子尊円入道親王（1298～1356）は，父天皇の書風にいくらか宋様式を取り入れ，青蓮院流と呼ばれる流派を開いた。青蓮院流は明治時代まで和様の本流として長い生命を保ったが，江戸時代にもっとも広範囲に行われた御家流は青蓮院流の末流である。室町時代の往来物もこの書風で書かれ，見た目の穏やかさ，形のとりやすさは多くの人に親しまれた。

鷹巣帖　31.0cm×485cm。１巻。鷹手本ともいい，西本願寺蔵。尊円入道親王が，「山花」「納涼」など11の題目に自身の漢詩七言２句と和歌１首を記したもので，1349（貞和５）年の奥書がある。

陶磁器とその流通　日宋貿易に伴って，中国製の陶磁器はわが国に多く流入した。ことに12世紀後半から14世紀前半にかけて，ピークを迎えたといわれる。北九州沿岸の博多・箱崎や今津（福岡市西区）では，景徳鎮や龍泉窯で焼かれた大量の輸入陶磁器が発掘されており，その実態がうかがわれる。蝦夷地や琉球を経て流入する場合も少なからずあり，十三湊（青森県五所川原市）や坊津（鹿児島県）も重要な港であったし，また北陸の敦賀や小浜にも直接中国船が入港している。これらの輸入陶磁器は，「三津七湊」などといわれた国内の水運のネットワークを通じて各地に運ばれたのである。

一般に陶磁器というが，1000℃前後で焼き吸水性のある陶器と，1200℃前後で焼き吸水性がなくガラス質の高い磁器の区別がある。国内にも常滑焼（愛知県），珠洲焼（石川県），備前焼（岡山県）などの窯があって，壺・瓶・すり鉢など無釉の陶器が生産されていたが，染付や青磁・白磁などの磁器については，まだ日本では生産することができなかったため，中国製のものが輸入されたのである。一つの中世遺跡から，こうした輸入磁器・常滑など国内の他地域の陶器，地元の陶器が併わせて出土することが多く，これらは用途別に使用されていたようである。

瀬戸焼の陶祖とされる加藤景正には，1223（貞応２）年，道元に従って入宋し，製陶法を学んで帰国し，窯を開いたという伝承がある。しかし，瀬戸窯の成立は道元入宋以前にさかのぼることや，当時の瀬戸焼（古瀬戸）と輸入陶磁器との技術の差が非常に大きいことから，この伝承は事実ではないとするのが一般的である。しかし，当時の国内産の陶器の中で，瀬戸焼は唯一，釉薬をかけて焼いたものであり，輸入陶磁器の代用品として国内に流通・分布したことは特筆すべきであろう。ちなみに，磁器生産を国内窯が始めるのは，江戸時代初期の有田焼からであり，瀬戸では有田からその製法を学んだのである。

新安沖の沈没船　蒙古襲来後も，日元間の民間ベースで交流は活発に続けられていた。1976年，韓国全羅南道新安郡木浦市の沖合で，この時期の沈没船が見つかったが，これはそうした活発な交流の一端をうかがうことができる貴重な発見となった。

この船は1323年６月頃，中国の寧波から博多に向かう途中に難破したもので，船長30m，乗組員60人程度の当時の平均的な貿易船（中国式ジャンク）であった。積荷は，陶磁器２万点余，銅銭28トン・約800万枚，紫檀材1000本というもので，発見された木簡から1319（元応元）年に焼失した東福寺再建を目的とする「東福寺造営料唐船」と推定されている。1325（正中２）年の建長寺船や1342（康永元・興国３）年の天龍寺船と同じような寺院造営料を得るための公許貿易船であるが，実態は複数の荷主からなる民間貿易船といってもよいものであった。

また，この時に日本製の鏡・将棋の駒・下駄などのほか，高麗式の匙や中国式の炊事用具なども発見されており，乗組員は日本人のほかに朝鮮人・中国人もいたことが判っている。

〈参考文献〉　川添昭二他『福岡県の歴史』（山川出版社）

有徳人　徳人・得人ともいう。本来，仏教用語である「有徳」は徳業のすぐれた有様を表わし，「有徳人」とは「徳」の備わった人のことを示すのだが，中世においては，社会に浸透してきた貨幣経済を背景に，非農業的で非領主的な富裕者，すなわち商人・借上・土倉・山僧・酒屋など流通や金融関係に携わる庶民（凡下）の富裕者を指す場合が一般的である。

このような富裕者は経済的利得，すなわち収入を表わす得分の「得」＝資材・銭貨・米穀など動産的な富を得ているが，これが同音の「徳」と表記される背景には，その業務形態ゆえに貪欲冷酷とみられる彼らの贖罪の意識から，社会への経済的・宗教的還元＝「功徳を施す」の意味合いでの「喜捨」的な行為を彼ら自身が行い，周囲の者たちが富の平準化を求める，中世の「有徳」観がある。また，鎌倉後期から室町時代さらに戦国時代にかけて，幕府・守護・寺社など領主層が有徳人すなわち富裕者に対し，祭礼・仏寺・神事などに当てる名目で有徳役や有徳銭を賦課した。

なお，非領主的で庶民的な致富の側面は，近世の上方町人にも引き継がれたので，仮名草子や浮世草子にも有徳人の語が見られる。

〈参考文献〉　阿倍浩一「戦国期の有徳人層と地域社会」『歴史学研究768号』（青木書店）

1 室町幕府の成立

持明院統と大覚寺統　後深草・亀山両天皇の父で「治天」（天皇家の家長として，実際の政務を掌握した天皇・上皇）として院政を行った後嵯峨上皇は，1272（文永９）年に没したが，幕府によって擁立された後嵯峨は，後継の「治天」を指名しなかった。幕府は，後深草・亀山の生母大宮院に後嵯峨の遺志を尋ね，亀山が「治天」として親政を行った。亀山が，皇子の後宇多天皇に譲位し院政を開始すると，後深草は前途に失望し，出家の決意を表明する。幕府は後深草の皇子（のちの伏見天皇）を後宇多の皇太子とした。伏見の即位により，後深草は院政を開始し，伏見の親政，伏見の皇子の即位（後伏見天皇）と伏見院政の開始と後深草の皇統に有利な状況が続く。

しかし，後伏見の皇太子は後宇多の皇子（のちの後二条天皇）とされ，後二条の皇太子は伏見の皇子（のちの花園天皇），花園の皇太子は後宇多の皇子（のちの後醍醐天皇）とされ，両皇統が交代で「治天」の座につくこととなった（両統迭立）。後醍醐の皇太子は当初，後二条の皇子とされたが早世したため，結局，後伏見の皇子（のちの光厳天皇）が皇太子となった。

このように，天皇家が後深草の皇統と亀山の皇統とに分裂し，「治天」の座をめぐって対立したのであるが，この後深草の皇統を持明院統，亀山の皇統を大覚寺統と呼ぶ。持明院統は長講堂領を，大覚寺統は八条院領を掌握し，室町院領は両統が折半し，皇室領も両統によって分割された。

両統の対立は，公家社会の各家の内部対立とも結びつき，また，両統内部でも兄弟による即位があって，天皇家はさらに分裂する可能性もあった。後醍醐の討幕の背景には，大覚寺統内での傍流としての立場や，両統迭立により，いずれ後伏見の皇子に皇位を譲らなければならない自らの立場を克服する必要があったことが指摘されている。

後醍醐は一旦は討幕に成功したが，建武政権はすぐに崩壊し，大覚寺統は南朝となり，持明院統は北朝となって，両統の対立は南北朝の統一まで続くこととなる。

後醍醐天皇の親政と討幕計画　【親政】　1321年，後宇多法皇は後醍醐天皇に政務を譲り，後醍醐天皇の親政が始まった。後醍醐天皇は記録所を置いて親政の中心機関とし，日野資朝・俊基をそれぞれ参議・蔵人頭に起用するなど人材を抜擢する人事を行った。そして，新関の廃止，洛中の酒屋役の徴収，洛中の米価や酒価の公定，洛中に米市場を設け公定価格での販売強制など，都市京都支配の強化や流通・商業を掌握しようとする新しい政策をつぎつぎに打ち出した。

【正中の変】　持明院統は，1318年の後醍醐天皇即位・邦良（後二条の子）立太子に不満を持ち，邦良の即位と持明院統の量仁の立太子の早期実現を期して，幕府への働きかけを行った。また，祖父後宇多法皇の死（1324）により後見を失った邦良は，早期の践祚（即位）の実現を目指し，幕府への働きかけを行った。こうして後醍醐天皇の退位が遠からず行われる情勢となった。

これに対して後醍醐天皇は，「無礼講」と称する会合を催して討幕の計画を練った。参会したのは側近の日野資朝・日野俊基，美濃武士の多治見国長らであった。1324年９月の北野祭当日を決起の日と定めたが，計画が事前に漏れ，資朝・俊基らは逮捕された。後醍醐天皇は幕府に討幕計画に無関係である旨の弁明を行い，幕府は資朝を首謀者として佐渡に流し，後醍醐天皇の処分は行わなかった。

【元弘の変】　正中の変により後醍醐天皇の立場は悪化し，持明院統の邦良譲位・量仁立太子実現に向けての幕府の働きかけは強まった。1326年３月に邦良が死去すると，次の皇太子には後醍醐天皇の望む子の世良親王ではなく，幕府の支持を得て持明院統の量仁親王がなった。この決定に不満を持つ後醍醐天皇は，日野俊基らと再び討幕計画を練った。まず南都北嶺の勢力を結集するために，子の尊雲法親王（後に還俗して護良親王），ついで尊澄法親王を天台座主とし，自らも東大寺・興福寺・日吉社・延暦寺などに行幸した。

しかし，後醍醐天皇の性急な行動に危機感をいだいた側近の吉田定房は，1331年六波羅探題に計画を密告し，六波羅は俊基らを逮捕した（俊基は後に鎌倉で処刑）。後醍醐は宮中を脱して，南都に潜行の後，笠置山で挙兵した。幕府は大軍を派遣し，皇太子量仁を皇位に就け（光厳天皇），後醍醐を捕らえ，翌年，隠岐に流した。こうして後醍醐の２度目の討幕計画も失敗に終わったが，畿内を中心に反幕府勢力の活動は鎮静せず，幕府倒壊への流れが形成された。

鎌倉幕府の滅亡　最後の得宗北条高時が生まれたのは，1303（嘉元元）年であるが，この13世紀末から14世紀初頭の時期は，社会の様々な領域に動揺が起こり始めた時期であった。13世紀半ば以降，その活動を活発化させつつあった悪党の問題はさらに深刻化し，1309（延慶２）年には熊野山の悪党を鎮圧するために15カ国の軍勢が動員され，1318（文保２）年には山陽・南海道の12カ国で六波羅から派遣された使節の指揮の下で大規模な悪党一斉取締りが行われている。

幕府中枢にあっても，1293（永仁元）年に内管領平頼綱が得宗北条貞時によって滅ぼされ，1305（嘉元３）年には貞時の仰せと称する武士に連署の北条時村が討たれ，これが北条一族ながら内管領となっていた北条宗方の陰謀とされて，宗方が討たれるという事件（嘉元の乱）が起きた。朝廷においても皇位をめぐる持明院統・大覚寺統の対立が激しくなり，1317（文保元）年には，幕府の調停によって両統の話合いがもたれた（文保の和談）が，不調に終わっている。

このようななかで，1318（文保２）年に即位した後醍醐天皇は，1321（元亨元）年には親政を開始し，積極的な政治を展開する。一方幕府では，1316（正和５）年に高時が執権に就任したが，高時は病弱だったと考えられ，田楽や闘犬に没頭し，政治は内管領長崎円喜・高資父子や外戚の安達時顕によって行われた。しかし高資は，蝦夷地代官安東氏の内紛に際し，両方から賄賂をとってそれぞれに都合のよい下知を与え，両者が蝦夷を動員して合戦に及ぶに至る。

そのようななかで，後醍醐は自らの立場を強化するためには幕府を倒すことが必要と考え討幕を計画するが，計画は1324（正中元）年に露顕，二度目の計画も1331（元弘元）年に露

教科書ソフト

教科書の本文や地図・図版といった教科書に掲載されているデータに加え，『教授資料 授業実践編』より板書例や用語解説，テストやプリント作成に役立つイラストや白地図，年表，準拠テスト例などの素材をCDに収録しました。さらに，操作方法などを説明した「教科書ソフト活用ガイド」も収録しております。

❶教科書データ Word

教科書の本文，注，写真キャプションといった文字情報のほか，地図や図版も収録しています。

❷準拠テスト例 Word

教科書準拠のテスト例を収録。Word形式なので授業の進度に合わせて編集可能です。

第3章　貴族政治と国風文化

2　国風文化

◉国文学の発達

9世紀後半から10世紀になると，貴族社会を中心に，それまでに受け入れられた大陸文化を踏まえ，これに日本人の人情・嗜好を加味し，さらに日本の風土にあうように工夫した，優雅で洗練された文化が生まれてきた。このように10～11世紀の文化は，国風化という点に特色があるので，**国風文化**と呼ばれる。

文化の国風化を象徴するのは，**かな文学**の発達である。すでに9世紀には，万葉がなの草書体を簡略化した**平がな**や，漢字の一部分をとった**片かな**が表音文字として用いられていたが，それらの字形は，11世紀の初めにはほぼ一定し，広く使用されるようになった。その結果，人びとの感情や感覚を，日本語で生き生きと伝えることが可能になり，多くの文学作品が生まれた。

まず，和歌がさかんになり，905(延喜5)年，紀貫之らによって最初の勅撰和歌集である『**古今和歌集**』が編集された①。その緒論で技巧的な歌風は，古今調と呼ばれて長く和歌の模範とされた。

貴族は公式の場では従来通り漢字だけで文章を記したが，その文章は純粋な漢文とはかなりへだたった和風のものになった②。

一方，かなは和歌を除いて公式には用いられなかったが，日常生活では広く用いられるようになり，それに応じてすぐれたかな文学の作品がつぎつぎに著された。かな物語では，伝説を題材にした『竹取物語』や歌物語の『伊勢物語』などに続いて，中宮彰子(道長の娘)に仕えた紫式部の『**源氏物語**』が生まれた。これは宮廷貴族の生活を題材にした大作で，皇后定子(道隆の娘)に仕えた清少納言が宮廷生活の体験を随筆風に記した『**枕草子**』とともに，国文学で最高の傑作とされている。また，道長の栄華をたたえた歴史物語『栄華物語』も，女性の手によってかなで書かれた。かなの日記は，紀貫之の『土佐日記』を最初とするが，宮廷に仕える女性の手になるものが多く，細やかな感情が込められている。

こういったかな文学の隆盛は，貴族たちが天皇の後宮に入れた娘たちにつきそわせた，すぐれた才能をもつ女性たちに負うところが大きい。

◉浄土の信仰

摂関時代の仏教は，天台・真言の2宗が圧倒的な勢力をもち，祈[1]を通じて現世利益を求める貴族と強く結びついた。その一方で神仏習合も進み，仏と日本固有の神々とを結びつける**本地垂迹説**③も生まれた。また怨霊や疫神をまつることで疫病や飢饉などの災厄から

ら逃れようとする御霊信仰が広まり，**御霊会**がさかんにもよおされた④。

寄木造の手法

寄木造の手法

束帯・女房装束・水干　束帯は，身分により色が違った。宮廷での女性の正装は女房装束で，色の異なる袿を何枚も重ねて美しさを強調した。水干や直垂は庶民や武士などに広く用いられた。

【一覧表】

おもな著作者

【詩歌】 古今和歌集(紀貫之ら)/ 和漢朗詠集(藤原公任)

【物語】 竹取物語 / 伊勢物語 / 宇津保物語 / 落窪物語 / 源氏物語(紫式部)
栄華物語(赤染衛門?)

【日記・随筆】 土佐日記(紀貫之)/ 蜻蛉日記(藤原道綱の母)/ 枕草子(清少納言)
和泉式部日記(和泉式部)/ 紫式部日記(紫式部)
更級日記(菅原孝標の女)

【その他】 和名類聚抄(源順)

おもな建築・美術作品

【建築】 醍醐寺五重塔 / 平等院鳳凰堂 / 法界寺阿弥陀堂

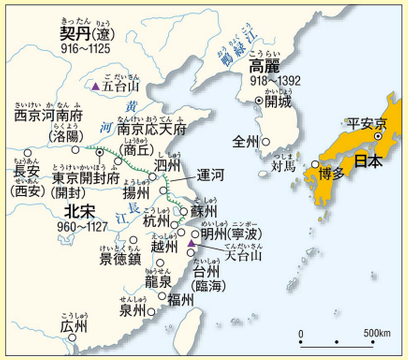
【彫刻】 平等院鳳凰堂阿弥陀如来像(寄木造) / 法界寺阿弥陀如来像(寄木造)

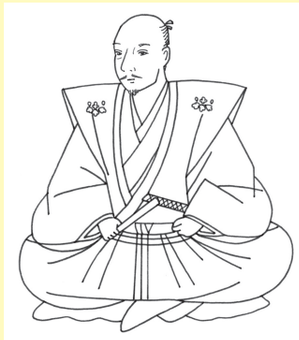
❸地図・図版 JPEG

教科書に掲載されている地図や図版をすべて収録(写真除く)。地図はカラーだけでなくモノクロでも収録されているので，テストや授業プリントなどに貼りつけてのご使用が可能です。

❹白地図 JPEG

各地域別の白地図を収録しています。





❺イラスト JPEG

プリント作成などの際，ワンポイントで使える人物や建物等のイラストを多数収録。

❻板書例・発問例・用語解説 Word

『教授資料 授業実践編』より，板書例・解説などを収録。

❼史料 Word

教科書や図録などに掲載されているものを中心に，頻出する史料文を口語訳と併せて収録しています。

❽年表 Excel

原始・古代から現代までの年表を収録しています。

❾デジタルブック PDF

教科書のレイアウトをそのままに，デジタルブック(PDF)として収録しました。

❿山川外字フォント

教科書で使用している外字フォントがインストールできます。

日B309	日B315	日B314
詳説日本史 改訂版	新日本史 改訂版	高校日本史 改訂版
商品番号：72-012	商品番号：72-015	商品番号：72-014

本体価格：各9,000円(税別)

対応機種　Windows 10/8.1
対応ソフト　Microsoft Word 2013以上／Microsoft Excel 2013以上
対応ブラウザ　Internet Explorer Ver.11以上

山川のICTでつ なぐ+ふかまる

電子黒板・プロジェクター用

日本史デジタル指導書（日本史A・B共通）

本体38,000円（税別）　商品番号：86-073　※デジタル教材集とデジタル素材集とのセット販売になります。

山川デジタル指導書の特長

- 電子黒板やプロジェクターなどICT機器を使用した授業で使えるPowerPoint教材を収録。
- 教科書・教授資料のデータやデジタル素材集などを活用してPowerPoint教材のカスタマイズが可能。
- 特典として，PowerPointの使い方を収録。教科書ソフト（別売り）やデジタル素材集とあわせて使うことでICT対応のオリジナル教材が容易に作成できる。

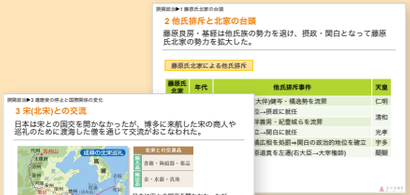
日本史デジタル教材集　※単体でもご購入できます。

本体18,000円（税別）　商品番号：86-075　※指導書扱いにつき，教科書取扱い書店にご注文ください。

デジタル素材活用の，あらゆる授業スタイルに対応！

3つのポイント
❶PowerPoint板書例（104のテーマ，1200以上のスライド）をご用意
❷短くまとめたエッセンスでポイントが一目瞭然
❸動画や教授資料等の教材も充実

内容（日本史A・B共通）
①PDFデータ
・教科書改訂版5点
・教授資料『授業実践編』改訂版5点
（詳説日本史〈日B309〉・高校日本史〈日B314〉・新日本史〈日B315〉・日本史A〈日A311〉・現代の日本史〈日A314〉）
・教授資料『研究編』
②授業用PowerPoint教材
・104テーマ（スライド1200以上）
・特典（PowerPointの使い方）
1ランク上の「PowerPoint資料作成術」／ PowerPointで鍛える歴史の「論理思考」
③デジタルMovie（24点）
④黒板投影用デジタル白地図



NEW 日本史デジタル素材集　※単体でもご購入できます。

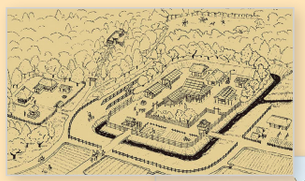
本体20,000円（税別）　商品番号：87-066

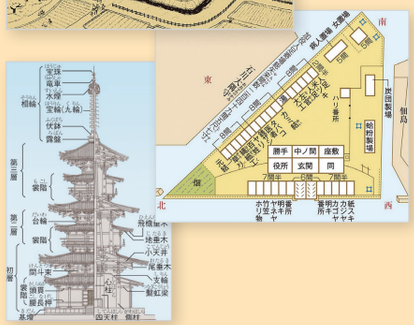
探していた素材がすぐ見つかる！すぐ使える！

3つのポイント
❶定評ある教科書と図録から，約2,600点を収録
❷教科書，キーワードなどから簡単に検索できる
❸画質の鮮明さにこだわり，遠くからでもよく見える

「山川日本史教科書全5冊」の特長
- 弊社発行の日本史教科書全5冊に加え，2冊の図録より，写真を除くすべての地図，系図，年表，グラフ，イラスト等の図版や資料を収録。
- 教科書の章立てだけでなく，キーワード検索が可能で，授業準備や授業中でもパソコンの画面上で簡単にセレクト・保存ができる。先生方のイメージする画像を使った授業を強力にサポート。
- パソコン画面上で拡大・縮小も簡単にでき，強調したい部分の投影も可能。
- 教室の後方からでも，十分鮮明な画像が得られる解像度。
- 画像データは，プリント作成にも使用可能。

日本史A・B共通
【教科書】日本史A：現代の日本史（日A314）・日本史A（日A311）
日本史B：詳説日本史（日B309）・新日本史（日B315）・高校日本史（日B314）
【図録】詳説日本史図録／ビジュアル版日本史図録





パソコンソフト

日本史正誤問題データ集

先生用（Windows版CD-ROM）

本体25,000円（税別）　商品番号：86-069

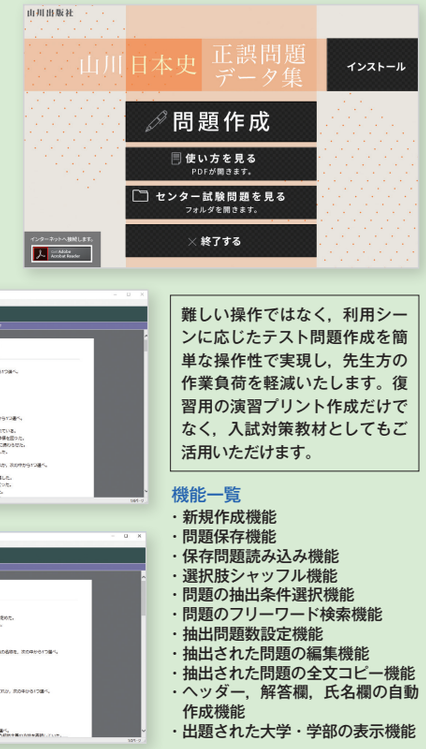
おなじみの正誤問題集が最新バージョンで登場！

3つのポイント
❶かんたんな操作性を実現
❷利用シーンに応じたオリジナル教材がつくれる
❸復習用の演習プリントのほか，実践的な入試対策としても使える

2015年までの大学入試に出題された過去7年間分の正誤問題を集めて収録。様々な条件での抽出はもちろん，詳説日本史（日B309）の章・節からの抽出やキーワードでの検索も可能です。

※対応機種：Windows 8.1，10

［抽出条件］
・出題年度
・時代区分　「原始・古代／中世／近世／近代・現代／総合」
・難易度　「基礎／標準／発展」
・分野　「政治・外交／経済・社会／文化／総合」
・章・節　詳説日本史の章・節



難しい操作ではなく，利用シーンに応じたテスト問題作成を簡単な操作性で実現し，先生方の作業負荷を軽減いたします。復習用の演習プリント作成だけでなく，入試対策教材としてもご活用いただけます。

機能一覧
・新規作成機能
・問題保存機能
・保存問題読み込み機能
・選択肢シャッフル機能
・問題の抽出条件選択機能
・問題のフリーワード検索機能
・抽出問題数設定機能
・抽出された問題の編集機能
・抽出された問題の全文コピー機能
・ヘッダー，解答欄，氏名欄の自動作成機能
・出題された大学・学部の表示機能

デジタル地図

山川デジタル歴史地図

本体35,000円（税別）　商品番号：86-079

地歴科ご担当の先生に必携のデジタル歴史地図。世紀ごとの世界地図をメインMAPとし，そこから教科書や図録に収載の地図への切り替えが可能。描画ツールを使って書き込みもでき，白地図にも切り替えられる。

拡大縮小や表示範囲が自由自在！これからの歴史授業に必携のデジタルMap

映像教材

動く写真集

ムービー日本史（全4巻）

本体各15,000円（税別）　商品番号：1巻87-026／2巻87-027／3巻87-028／4巻87-062

高等学校のベストセラー教材「日本史写真集」全6巻・388項目の中から特に必要度の高い138項目を厳選し，DVD4枚に収録。

授業の導入に最適！わかりやすいナレーション詳しい解説書付

日本史Ⓐ Ⓑ
教科書一覧

Ⓐ

日A 311

日A 314

Ⓑ

日B 309

日B 314

日B 315

著作者・編集協力者

（2020 年 3 月現在，五十音順）

荒井 晴夫（あらい・はるお）
前埼玉県立岩槻高等学校長

歴史教育
- 高校日本史

伊藤 之雄（いとう・ゆきお）
京都大学名誉教授

日本近代史
- 新日本史

老川 慶喜（おいかわ・よしのぶ）
跡見学園女子大学教授

日本近代史
- 詳説日本史
- 高校日本史
- 日本史 A

大津 透（おおつ・とおる）
東京大学教授

日本古代史
- 新日本史

加藤 陽子（かとう・ようこ）
東京大学教授

日本近代史
- 詳説日本史
- 高校日本史
- 日本史A

久留島 典子（くるしま・のりこ）
東京大学教授

日本中世史
- 新日本史

五味 文彦（ごみ・ふみひこ）
東京大学名誉教授

日本中世史
- 詳説日本史
- 高校日本史

斉藤 真幸（さいとう・まさき）
群馬県立前橋女子高等学校教諭

日本近代史
- 日本史A

早乙女 雅博（さおとめ・まさひろ）
東京大学名誉教授

考古学
- 高校日本史

坂上 康俊（さかうえ・やすとし）
九州大学教授

日本古代史
- 詳説日本史
- 高校日本史

桜井 英治（さくらい・えいじ）
東京大学教授

日本中世史
- 詳説日本史
- 高校日本史

笹山 晴生（ささやま・はるお）
東京大学名誉教授

日本古代史
- 詳説日本史
- 高校日本史

佐藤 信（さとう・まこと）
東京大学名誉教授

日本古代史
- 詳説日本史
- 高校日本史

塩出 浩之（しおで・ひろゆき）
京都大学准教授

日本近代史
- 現代の日本史

白石 太一郎（しらいし・たいちろう）
国立歴史民俗博物館名誉教授

考古学
- 詳説日本史

鈴木 淳（すずき・じゅん）
東京大学教授

日本近代史
- 詳説日本史
- 高校日本史
- 日本史A

高埜 利彦（たかの・としひこ）
学習院大学名誉教授

日本近世史
- 詳説日本史
- 高校日本史
- 日本史A

高橋 典幸（たかはし・のりゆき）
東京大学准教授

日本中世史
- 詳説日本史

高村 直助（たかむら・なおすけ）
東京大学名誉教授

日本近代史
- 日本史A

鳥海 靖（とりうみ・やすし）
東京大学名誉教授

日本近代史
- 現代の日本史

中家 健（なかいえ・たけし）
東京都立小石川中等教育学校教諭

日本史教育
- 詳説日本史

中里 裕司（なかざと・ひろし）
前東京都立日比谷高等学校教諭

日本近代史
- 詳説日本史

中村 尚史（なかむら・なおふみ）
東京大学教授

日本近代史・経済史
- 現代の日本史

野﨑 雅秀（のざき・まさひで）
東京大学教育学部附属中等教育学校教諭

日本近代史・歴史教育
- 日本史 A

藤田 覚（ふじた・さとる）
東京大学名誉教授

日本近世史
- 新日本史

牧原 成征（まきはら・しげゆき）
東京大学准教授

日本近世史
- 詳説日本史

三谷 博（みたに・ひろし）
跡見学園女子大学教授

日本近世・近代史
- 現代の日本史

吉田 伸之（よしだ・のぶゆき）
東京大学名誉教授

日本近世史
- 詳説日本史
- 高校日本史

渡邉 昭夫（わたなべ・あきお）
東京大学名誉教授

日本現代史・国際関係
- 現代の日本史